



相手に寄り添う 豊かな心を 読書の力で育む



⑨図書館の児童図書スペース。専用のカウンターには司書が常駐。⑩大人のための落語に親しみ会場で古典落語を披露するボランティアの山形康典さん。⑪パパのための読み聞かせ講座。絵本の持ち方や読む速さなどの指導を図書館司書から受けました。



①「ピブリオバトルに参加してから妻に本をプレゼントするようになり、会話が増えました（高久さんご夫婦）。②かにかにこそこの「えほんとおはなし会」に参加した大宮さんご一家。「寝る前に必ず読み聞かせをしています」。③読書ボランティアとして活動をする鈴木理恵さん。読書好きの遺伝子は子の茂美さんへ。

現力、言葉は相手の気持ちを考えて、言葉を選ぶことにつながり、その結果、相手に寄り添うことができる豊かな心が育まれます。

読書習慣を身につける

子どもの読書習慣は日常生活を通して形成されるものです。小さなころから、毎日過ごす家庭の中で、本に触れる機会が多ければ、自然と本に興味を示す子どもに育ちます。家庭は子どもにとって大切な読書環境。子どもの身近に、子どもと



④3姉妹は本が大好き。ぐりぐらタイムなどの図書館事業にも積極的に参加しています。⑤⑥赤ちゃんも絵を認識して笑顔を見せます。赤ちゃんから絵や文字、お話に触れ合うことは豊かな心を育むためには大切なことです。⑦4年後の⑥の赤ちゃん。今でも本が大好き。「絵本を読まないで寝てくれない」とママ談。⑧4月に開催したえほんワールド。自転車に乗せた紙芝居を披露。この事業もボランティアが行っています。

インターネットが普及し、多くの情報があふれるようになった現代。正しい情報を得るには、言葉や知識、広い視野、客観的に物事を捉える視点が大切です。

最近若者を中心にSNS



町を育む ほんとの 出会い。

本との出会い、人との出会い。新しい出会いが始まる本の魅力。三芳町の未来を育むには「ホントノデアイ」がたくさんあることが大切です。

（ソーシャルネットワークサービス）や電子メール、LINEなどで「言葉」を使う機会が増えてきました。同時に、言葉の使い方や表現を誤り、相手を傷つけてしまう可能性も秘めていると言えます。

相手に寄り添う気持ち。自分

とは異なる考え方があることを認識し、正しい言葉で伝えることは子どもでも大人でも必要で重要なものです。この力を養うことができるのが「読書」です。

豊かな感性を育む

現実にはない冒険、不思議の世界。本やストーリーテリングに登場する主人公になりきり、自分と重ねて物語を読み進めることで、まるで本当に体験したかのような感動を得ることが出来ます。

さらに様々な世界や人生、価値観との出会いにより、広い視



毎年恒例のクリスマス会に参加した太陽の家利用者の皆さんとボランティアスタッフ。障がいのある人たちへも読書の魅力を届けます。

毎月23日は
よみ愛・読書の日

まちぐるみで「本が好き」「読書が好き」な人が増えるように、毎月23日は「読書」を意識してみませんか。皆様のご協力をお願いします！

三芳町図書館職員司書一同



ワクワクがたくさん！
図書館に遊びに来てね♪

毎月のイベント情報
広報みよしで紹介中

広報みよしでは毎月「図書館だより（今月は14頁）」でおすすめ本や図書館のイベントを紹介しています。児童向けのぐりぐらタイムなどの日程は、「こども通信（今月は28頁）」で紹介しています。ぜひご覧ください。

インターネットで
読書をより便利に

図書館ホームページで貸出状況や貸出期間の延長、所蔵資料の予約や予約状況の確認ができます。

児童向けこどもページや
イベント情報も公開！

三芳町図書館 検索



（写真上）事業の最後には必ず「ブックトーク」をし、おすすめ本を司書が紹介。奪い合うように本に子どもたちが集まります。（写真中央・下）地域に愛されるぐりぐらタイム。手遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居などを親子で楽しむことができる20年以上続く人気の事業です。

読書で言葉が育つ

「泣く」。同じ意味でも例えば、「号泣する」、「涙が頬をつたう」、「嗚咽する」など言葉を変えることで、異なる印象を与えることができます。読書によって培われた、想像力や表